



全国曹洞宗青年会の 活動紹介（六十八）

第二十六期スタート スローガン『ともに歩む』

全曹青第二十六期会長 宮本 昌孝
みやもと しょうこう

令和七年五月三十日に行われた定期総会より、第二十六期全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）が始動いたしました。前期では全曹青創立五十周年を迎え、様々な事業を展開いたしました。第二期会長を務められた紫雲臺猊下を始め、諸老師・諸先輩方、現役会員が一同に結集し、想いを結び合わせ無事に円成いたしました。この場をお借りいたしましたして御礼申し上げます。設立の理念である『大衆教化の接点を求めて』に込められた想いを相承し、会員一同邁進してまいります。

さて、第二十六期のスローガンは「ともに歩む」とさせていただきました。私はお寺で生まれ育ちましたが、先代住職が若くして遷化したため、大本山永平寺での安居後すぐに住職として務めることになりました。先代住職からの引き継ぎが無い状態で、何から手をつけてよいのか途方に暮れるばかりでしたが、幸いにも、同地域のご寺院さま、そして早くより入会した青年会で繋がった先輩方や同年代の勝友が手を差し伸べてくださるおかげで務めることができております。全曹青でも多岐にわたる活動の中で苦勞することも少なくありませんが、困ったときは全国から集まった会員が助けてくれます。会員同士が互いに切磋琢磨し尊重しともに歩む姿を、未来へと残して行きたいと考えております。

また、僧侶同士だけではなく檀信徒を始めとした一般の方とも、ともに歩んでいきたいと考えております。大本山總持寺を開かれた瑩山禪師は、「師檀しだん和合わがっくして、親おやしく水魚すいぎょの昵ちかづきをなし、来際らいさい一如いちににして骨肉こつにくの思おもいを致すべし」と、『洞谷記』でお記しになられ

ました。全曹青は開創七百年慶讃
法要などで、能登の大本山總持寺



第二十六期執行部

祖院で活動するご縁をいただきま
したが、地域の方がたより親しみ
を持つて、「雲水さん、こんにちは」
とお声をかけられる姿を拝見し、
瑩山禪師のみ教えが深く根付いて
いることを実感いたしました。今
でも多くの方が、地震と最後の
豪雨によって大切な方や家を失
い、仮設住宅での生活を余儀なく
されております。全曹青は全国の
会員とともに能登を始め各被災地
で支援活動を行っておりますが、
歴代祖師さま方が実践してこられ
たように、今こそ我われ青年僧侶
が苦悩する方がたの心に寄り添
い、同じ空を見上げて
まいりたいと考えてお
ります。

お釈迦さまのみ教え
が現在の私達に至るま
で、どの時代、どの国



●執筆者プロフィール
宮本昌孝

山口県曹洞宗青年会 所属
第二十一期より出向
第二十三期総合企画委員長
第二十四期事務局長
第二十五期副会長

や地域においても、変容する日々
の生活では様々な問題や困難が
生じていたと存じます。それでも
今に伝わっているのは、歴代祖師
さま方が互いに協力してこられた
からだと確信しております。一つ
の空のもとに生まれ、同じ今とい
う時間を共有する会員同士が乳水
和合して繋がり、自由で創造的な
活動を展開して、この世界に生き
るすべての人々と、ともに未来へ
と歩みを進めてまいります。

皆さまの温かいご法愛を賜りま
すよう、伏してお願ひ申し上げます。
合掌